

授業科目名 ( 英文名 )	経済政策 ( 経済学部・専門教育科目 ) ( Economic Policy )	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	桑原 史郎	所属	経済学部
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	様々な時代背景の下、経済問題や経済危機に対応して行われてきた経済政策の歴史を概観した後に、ミクロ経済学やマクロ経済学の簡単な理論を紹介して経済政策の仕組みやその政策が有効である為の前提条件を明らかにし、受講生各自がその時々でどのような政策が必要となるのか判断する能力の涵養を目的とする。受講生各自が関心ある政策を持ち有効性や前提条件に関して経済理論を利用して議論出来るようになることを到達目標とする。		
講義内容・授業計画	<p>講義は経済史・経済学史篇・ミクロ経済学篇・短期のマクロ経済学篇・長期のマクロ経済学篇の4つのパートからなる。各パートの内容と時間配分は概ね以下の通りである。</p> <p>一．イントロ及び経済史・経済学史篇 市場・経済主体・公共財・政治哲学(1-2回)・ 経済政策史(3～5回目)</p> <p>二．ミクロ経済学篇 市場と部分均衡分析(6回目) 最適化と微分(7回目) 家計と効用最大化(8～10回目) 生産と利潤最大化(11～13回目) 市場均衡と余剰分析(14回目) パレート最適と厚生経済学(15回目) 独占(16回目) 公共選択・選挙(17回目)</p> <p>三．短期のマクロ経済学篇 マクロ経済の捉え方(18～19回目) 45度線分析と財政政策(20回目) IS-LM分析と金融政策(21回目) 開放経済と貿易政策(22回目) AD-AS分析・恐慌論(23回目)</p> <p>四．長期のマクロ経済学篇 経済成長の概念と事実(24～25回目) ソローモデル・世代重複モデル(26～27回目) 技術革新と内生的成長、貧困の罠(28～29回目) 現在の経済の課題(30回目)</p>		
テキスト	なし。必要に応じて講義資料を配付する。		
参考文献	授業中に関連する文献を適宜指示する		
成績評価の基準・方法	定期試験(100%) 補助的な評価手段としてレポートや小テストなどを課す場合が有り得る。		
履修上の注意・履修要件			
実践的教育			
備考			